



ふれあい

題字 西村系子



長沢川に舞うホタル
2022年6月撮影

戸水は毎日のように持参しました。他の小中学校には配達もしました。一部幼虫は十一月ごろまで水槽で飼育、他は夏休み前に指定された河川に放流。これを毎年繰り返したことを思い出します。

学校を辞して二十余年。今もホタルと縁が切れずにいます。あの乱舞していたわが里のホタルも、平成六年から始まった圃場整備事業により、ホタルの住めない里になりました。すべての河川はコンクリートの三面張り。やっと山裾の一角と木々に囲まれた小学校の水路を大切に守っています。幸いなことに、カワナが辛抱強く生息し、貴重な飼料を提供してくれたことに感謝しております。

また、今年の「ホタルの鑑賞会」も多くの参加者を得て無事終えることができました。地域の皆さんの協力のおかげです。

最近では、瀬田東学区の長沢川をはじめ、数か所のホタルの幼虫放流の依頼を受け準備していますが、近年になって全国的異常気象による増水が、ホタルの里づくりに大きな障害となってきました。台風シーズンが過ぎるまで、最小限の被害で済むように祈っています。

ホタルは美しい水、澄んだ空気、きれいな土のあるところのみに生息する生き物です。「ホタルの飛び交う町」は、自然環境の優れた町と言えます。

全国で減少していくホタルですが、各地域活性化の原動力にホタルが飛び出すのを期待しています。

令和四年度活動予定

- 九月
- こども園・幼稚園 稲刈り
 - 源内峠遺跡 草刈り
 - 学園通り ノーポイ啓発運動（毎月実施）
- 十月
- 源内峠遺跡 草刈り
 - 瀬田公園 花からの森フェスタ
 - 読み聞かせ
 - 文化祭
- 十一月
- ひわご文化公園フェスティバル 源内峠遺跡案内
 - こども園 自然観察・読み聞かせ
 - 親子須恵器づくり
 - 山ノ神遺跡 芋の収穫
- 十二月
- 凧あげ
 - しめ縄づくり

「たかがホタルと共に」

田上郷土資料館館長 東郷 正文

私とホタルとの出会いは、守山市内の中学校に勤務していた平成初期の頃だったと思います。

守山市は、その十年ほど前から「ホタルの飛び交うまち守山」となるような河川環境と「ホタルのまち守山」としての活性化をはかるために、人工河川の設置や、ホタルの飼育のための研究室が設けられて、いろいろな試験が始まっていました。

事業が軌道にのりだすと、学校にもクラブ活動としてホタルの飼育の依頼がありました。校内では、依頼を受けて設置場所や顧問の問題等で先行不安。私が言った「我が田舎にはホタルなんかいっぱい飛んでるで」一言で、ホタル飼育の手伝いに至りました。

その頃、偶然にも地域の古老から幼少期の「守山のホタル」の聞きとりの場を得て、ホタルの生息のすごさ、その利用のすごさに感服いたしました。

明治から昭和にかけて、守山小学校の児童と先生で皇室にホタルを献上していたこと。大正十年頃の「ホタル祭り」は、守山小学校の校庭にホタルを一万匹放ち、観光客らに自由に捕獲させていたこと。また昭和のはじめ頃には、ホタルの間屋が四軒ほどあり、百万匹以上を扱い、京阪神を中心に、北海道、朝鮮、満州からも注文があったことなどを知りました。その守山のホタルが、昭和三十年頃には、産業廃水、農業廃水、農薬等による水質汚濁により、ホタルとカワナが絶滅し、昭和三十五年には「天然記念物指定」から解除になりました。

このような動きの現実を知ると、自然環境の大切さをクラブ活動をとおして、養えたらと思うようになりました。しかし、ホタルの生態や、人工飼育についての知識はゼロ。鳩の森公園にある研究室に通い、ホタルの生育とわがままさを知ることになりました。

六月になると、ホタルは我が家付近で捕獲。ふ化は学校で、カワナと井

瀬田東文化振興会 HPQR コード
文化振興会の様々な活動を
紹介していますので、
ぜひご確認ください。



瀬田東文化振興会だより(53号)
発行日 2022年9月1日
編集人 広報部 岩原 勇氣
発行所 瀬田東文化振興会
大津市一里山三丁目 16-1
大津市瀬田東公民館内
077-545-9001
発行責任者 竹内 稔

瀬田東文化振興会 メンバー募集

瀬田東文化振興会では、幼少年期に様々な体験活動を通じて、しっかりとした学びの芽を作り育てることを目的とし、東学区の保、幼、小、小中と協力し活動をしています。私たちと一緒に活動しませんか？
公民館までご連絡ください♪

東っ子事業

長沢川探索とホタルの幼虫放流



ホタルの魅力を学ぼう



陶芸教室

長沢川の歴史



「子ども体験学習に 寄せる思い」

瀬田東文化振興会

会長 竹内 稔

文化振興会では、次代を担う子どもたちの成長を支え、親子のふれあい・友達との絆を深めるための体験学習を行っています。

今年度最初の取り組みとして、「不思議な絵の世界」をテーマに、描かれた図形が実際とは違って知覚される錯視について学習しました。不思議な現象に一樣に興味深く熱心に聞き入っていただきました。錯視が脳の仕組みから起こることは知られていますが、現象のメカニズムについては解明されていません。

第二弾では、身近な環境問題に関心を持つ契機とすべく、「ホタルが飛び交う長沢川の復活」をテーマに取り組み、その一環として川の環境保全に、不法投棄されたごみの回収を行い、次の年ホタルが回帰することに願いを託し、参加者全員が長沢川にホタルの幼虫を放流しました。

これらの学習から、日常生活の中での様々な疑問に、問題意識と関心を示すことで、当会が目指す、豊かな感性を育むことにつながれば幸いです。



瀬田東幼稚園



一里山ひかりこども園



学園前こども園



山の神遺跡での読み聞かせ

瀬田東の幼稚園や

子ども園との取り組み

瀬田東文化振興会 松田 文男

私の子供の頃の思い出は、自然と遊ぶことが全てでした。良くも悪くもそれしかなかった時代で、そこからいろいろなことを学び取りました。例えば、夏休みには朝ラジ体操が神社で始まる前に、友達より早く起きて近所の鎮守の森でカブト虫やクワガタを採って自慢げに友達にその時の木の状態や蜂の様子など、詳しく話を聞かせる。

また、ガキ大将に連れられて、近くの池で筏づくりを教えてもらい遊ぶ。その時に池の怖さを教わる。冬には、学校から帰るとすぐに友達と喧嘩駒をして遊ぶ、その時どうしたら勝てるのかを子供なりに考えて、何度も何度も試作をして勝つまで挑戦を続けました。

ただ、何もなかった時代で親もかまってくれませんでした。寝るときには母親が添い寝をしてくれて、必ず絵本を読んでくれたことを思い出します。

つたない体験ですが、体験を積み重ねるごとに、知らず知らずに「ものの見方や考え方が身につく好奇心旺盛になり、興味がわき、アイデアも豊富になってくる。それが今も役立っていると自負しています。

今の子どもたちは昔のように自然から学ぶことが少なくなっています。

今では難しい自然から学ぶ体験を少しでも地域の宝である子供たちにしてほしいという思いで幼稚園や子ども園と協力し、身近の素材で作る紙飛行機、笹船づくり、東学区の森の公園の散策と自然の中での絵本の読み聞かせや芋苗植えと収穫、田植えと稲刈り等を行っています。この体験が子供たちに楽しかった思い出とともに何かの学びになってくれることを信じてこれからも続けていきたいと思っています。

田植え



玉ねぎの収穫

